

令和5年3月24日

新キャンパス長会議資料

副校長 尾崎 圭

令和4年度学校関係者評価委員会

日時：令和5年3月15日（水）13：00～14：30 野田本校2階1C教室

参加者：白波瀬校長、遊佐研究主任、尾崎

吉田 富昇 様（東京学芸大学教職大学院特命教授）

井田 裕 様（野田市立第一中学校校長）

大保 一成 様（野田市立岩名中学校教諭）

堀 糧成 様（野田鎌田学園高等専修学校校長）

佐藤 海蓮 様（野田本校令和2年度卒業生）

開地美桜莉 様（柏キャンパス平成29年度卒業生）

瀧尻 穂香 様（柏キャンパス平成29年度卒業生）

佐久間雅仁 様（大宮キャンパス令和3年度卒業生）※現さいたまキャンパス

ご意見抜粋

1. 教務分野について

- ・学習指導体制の充実がなされている様子がわかりました。
- ・授業を大切にしていると生徒が捉えていることがいい。
- ・授業の内容等はレポートをとおして淡々と進んでいった印象でした（当時）。
- ・生徒、保護者と教職員での評価のギャップは生徒と保護者の持つ情報が同じだから。
- ・公開授業などで保護者に学校内部の一時情報を与えるべき。

2. 課外活動分野について

- ・（評価が低いことを指して）生徒本人が希望していることを前提にしているのか？
本人が望んでいるのに整備されていないのか否かが不明。
- ・部活のシステムに興味を持てた。周知の仕方、運営の仕方など工夫も考えられる。
- ・部活動は生徒のニーズに合わせてスタートできる柔軟性が必要。
- ・部活のきっかけ作り、教員からのサポートなど→生徒の満足度や自主性につながる。
- ・外部の先生方からの意見をお聞きして、原点で良いやり方だと改めて感じた。
- ・6月30日時点での部活動が少ない、運動系の部活も少ない印象。

3. 進路指導分野について

- ・将来への見通しに不安ももつ生徒は年々増加している。コロナ禍の中、実体験の場が減少している。
- ・保護者向け進路ガイダンスを検討する旨の説明があったが大賛成です。

- ・卒業してからのビジョンが少し見えにくいように感じる。卒業生交流や、外部との交流に力を入れてみてもいいのでは。
- ・卒業生の具体的な進路がより明確に（在学中に）知りたかったです。
- ・卒業生の話を聞く機会があずきではないと感じた、呼ばれば伺います。
- ・進路ガイダンスなどで上級学校の説明が直接受けることができているので十分なようにも感じる。

4. 生活指導分野について

- ・生徒、保護者、教職員の否定的な回答を0に限りなく近づける努力姿勢は不可欠。
- ・卒業生のお話で十分理解できた、問題を抱える生徒が多い中本当にありがとうございます。
- ・いじめ問題の認知について評価が高いように思う、教員間の情報共有を大切にしているのが良いと思う。
- ・いじめ認知はきちんと対応していただけることが分かって安心して学校生活を送っていました。

5. その他全般について

- ・SC/SSWの項目の高評価が何よりすばらしく、これが御校の強みだろうと思う。
- ・SCの利用のしづらさを在校時に感じた。
- ・SCの存在を今知りました。こういう先生がいるよ！ということがわかる体制であると良いのかなあとと思います。
- ・PCやプロジェクターを用いたICTの授業が増えても良いと思う。
- ・高校でもPC一人一台持たせることを検討しておくべき。

6. 教職員分野について

- ・特に若手教員は研修に飢えているのではないのでしょうか？モラルアップをお願いします。
- ・今後、地域の学校として（中学校と）教職員の交流ができると良いと考えます。
- ・教職員の回収率100%を目指しましょう。生徒、保護者は50%は欲しいですね。
- ・私はあずきの教員で基本的に嫌な思いはしなかったのですが、この先も続けて欲しい。
- ・コンプライアンスやハラスメントに対しての詳しいアンケートは必須だと思う。

【意見交換の中から】

- ① 回収率について：紙ベースでの提出が16名だったが、そこに着目すべき、紙での回答が恥ずかしかったのかもしれない。→紙での配布も必要かも。
- ② 部活動について：一年単位での設立、生徒が5名以上集まって顧問を見つけて、年間計画を立ててというあずきの方法は本来あるべき姿で理想的である。
- ③ いじめ認知について：小中学校でいじめにあってきて、あずきでも嫌な思いをしたことがあった。その時、その内容が担任やキャンパス内で封じ込まれずにすぐに白波瀬校長にまで報告があったことに驚き、その時にもものすごく心強く感じた。